アメリカ派遣留学報告書

国際文化学科　２年
小柴　香琳

私は約４ヶ月、アメリカのミズーリ州にあるノースウェストミズーリ州立大学に留学しました。この大学はとてものどかで平和なマリービルという町にあります。初日、そこに着いたのは夜でした。手違いで私を含めた８人以外の 14 人の方たちは違う寮で生活をすることになり、私達ははじめとても戸惑いました。その後先生がいない中あるはずの布団がなく、探しに行ったりして、初日から様々なハプニングがありましたが寮の方々が親身になって対応して下さり、その日初めてアメリカの優しさに触れました。しかし同時に、自分の英語力のなさにがっかりもしました。

私たちが大学に着いた日から授業が始まる日までに、リーディング、ライティング、グラマー、リスニング・スピーキングのテストをしたり、パソコンを借りたりと授業のための準備がありました。リーディング、ライティング、グラマーのテストは筆記でした。リスニング・スピーキングのテストは Mrs. Hardee と、Mrs. K と３人で数分話をする、というものでその時に初めて外国人と英語でちゃんとした会話をしました。とても緊張していましたが、先生たちはとても優しく、理解してくれようと努めてくれたので心配はいりませんでした。そしてテストだけでなく、様々なイベントにも参加したりなど、暇な日はありませんでした。この期間にマリービル内のあるウォールマートというホームセンターで買い物ができるはずだったのですが、バスの都合でできなくなってしまい、少し大変でした。

授業はリーディング・ライティング、リスニング・スピーキング、グラマー、TOEIC、カルチャーがあります。TOEIC とカルチャーの授業は日本人のみ。その他の授業はテストによって 2 つに分けられたクラスで受けます。各クラスには私達日本人だけでなく、中国、韓国、サウジアラビアからの学生もいます。授業中の席は先生が決め、1 週間ごとに席替え。授業ではほとんど毎回、隣の人と話し合う時間がありました。私はどうしても自分の意見を持つことが中々できず、またシャイな性格なのでこの話し合いの時間は毎回ドキドキしながらしていました。また、基本的に授業は挙手制で、手を挙げ発言をしなければ点数が貰

えません。私達には先生の質問に答えたり、分からないことや単語の意味を聞いたりすることが求められました。はじめの頃、手を挙げていたのはほとんど日本人以外の学生でした。私自身、間違うことや分からない、知らないことを人前で聞くのは恥ずかしく思っていたので中々手を挙げることが出来ませんでした。しかし、毎回最低でも 3 回は発言をする努力をし、そうやっていくことで以前よりもそれを苦に思うことはなくなりました。小、中、高を通して発言を苦手としていた私はここで少し強くなれたと実感しています。カルチャーの授業は、先生だけでなく、その大学の学生などが参加してパワーポイントを使ったプレゼンをします。聞き取りながらメモを書く作業はとても大変でした。基本的にすべての授業で宿題は毎回ありました。その殆どが単語の意味調べでしたが、他にも参加したイベントについて書いたり、外国人にインタビューしたりといろいろありました。大変な日もありましたが、どうしても終わらない、徹夜しなくてはならないということはありませんでした。テストは毎日のように単語のテストがあり、もちろんそれも成績に反映されます。大きな、学期末などのテストは本当に自分の実力を試されるものでした。しかし先生方はテストの点数よりも、普段の私たちがちゃんと授業に参加しているか、貢献しているか宿題をしっかりしてきているかを見ていました。テストで頑張ればいいという癖が付いていた私ですが、普段の授業がどれだけ大事かを改めて知りました。授業は全て英語ですが、先生はとても優しく、丁寧に分かりやすく説明し下さいました。また、どうしても分からないところは授業後先生に聞いたり、友人達と教えあったりと、授業について行けなくなることはありませんでした。また、成績はサイトを通じいつでも確認することが出来、毎日自分の頑張りが反映されていくのでそれもやる気につながったと思います。授業内で、ESL の学生以外の 2 人の学生と約一時間話す、というものが 4 回ありました。話す内容はそれぞれで違い、人によっては日本のことを聞いたり、好きなものや趣味を聞いたりした人もいました。その 2 人とは授業以外に 1 回会わなくてはならなくて人見知りの私は緊張していたのですが、2 人ともとても優しくてフレンドリーだったので心配する必要はありませんでした。

私たちには 1,2 人に対して 1 人、カンバセーションパートナーがつき、週に 2 時間話しをする場がありました。カンバセーションパートナーはアメリカ人で、ネイティヴな英語を学べる場でもあります。私の場合は 1 日 1 時間を週 2 日、パートナーは同い年の女性でとてもフレンドリーで優しく、こちらが言葉につ

っかえたり、分からなくなっても理解しようとしてくれました。毎回テーマを決めて、お互いの好きな事や国のことを話したりしました。最初はカンバセーションパートナーとしての付き合いでしたが、そのうち仲良くなりプレゼントを交換したり一緒にボランティアしにいったりするなど、本当の友達になることが出来ました。そして 1 日 1 時間という時間がとても短く感じるようになりました。はじめのころはカンバセーションパートナーというものに緊張して、自信もありませんでしたし、思いの外聞き取れず、理解できず、話せず、ガッカリすることばかりでした。しかし、4 か月間ずっとやっていて、“話したい”という気持ちが大きくなり、以前よりも聞き取れるようになったり、パッと答えられるようになったりと、気付かないうちにカンバセ―ションの時間が確実にコミュニケーション能力の成長に大きく貢献していました。

私が 4 か月過ごした寮はフランケンホールでした。サウスコンプレックスよりも古いですが清潔感があり、とても落ち着く寮でした。何回かある寮でのフロアミーティングでは話を聞く以外にみんなでゲームをするなど、少し私は苦手だったのですがみんなとてもフレンドリーでした。寮内でイベントがあったりもするのでとても楽しかったです。分からないことがあった時やフロアミーティングなどで中々なじめない時でも声を掛けてくれる人がいましたし、とてもアットホームな寮でした。

このノースウェストミズーリ州立大学には様々なイベントがありました。イベントは友達を作るとても良いチャンスでした。特に前半の２か月は野外でパーティあり、立っているだけで声を掛けてくれる人が沢山いました。また、話したことのない人とも写真を撮ったりもしました。また、週に一度はイベントに参加して報告する宿題が毎週あったのでそのためにも最低週に一回はイベントに参加することになります。また、必ず参加しなくてはならないイベントもありました。あまり気が乗らない時でも行ってみると楽しいイベントばかりでした。イベントのない日でも、部屋ではなく図書館に行って宿題や勉強をしたりして出来るだけ外に出る努力をしました。そのおかげで友達も出来ましたし、部屋にこもっていたら出来なかったことばかり経験することができました。ESL クラスでも二回、前期と後期で一回ずつフィールドトリップがありました。前期にはオマハにある動物園とショッピングモールに行きました。私は人生で初めての動物園だったのでとても感動したのを覚えています。動物園ではいくつかのグループに分かれて行動しました。ショッピングセンターも留学してから初めての

大きなお店だったのでとても楽しかったです。後期のフィールドトリップはカンザスシティーの博物美術館とショッピングモールへいきました。博物美術館はとても大きくて回りきることが出来ませんでしたが、世界中の美術品などを見ることができ、とても楽しかったです。ショッピングモールではもともと行きたいお店をピックアップしておいていたのでとても有意義に時間をつかうことができました。

私達には主に感謝祭でお世話になる FIS ファミリーがいます。FIS ファミリーも 1,2 人に対して一家族振りあてられます。普段はお誘いがあれば一緒に遠くへ出かけたり、食事をしたりなど人によって頻度は違いますが私の場合は一度、St.ジョセフにあるミュージアムへ行ったり、食事を一緒にたべました。11 月にある感謝祭には FIS ファミリーの家でホームステイをします。私はなかなか打ち解けられずにいたのですが、相手の方はとても親切で常に私たちのことを気遣ってくださいました。一緒に料理をしたり、テレビや映画を観たりなど、とてもリラックスできた期間でもありました。アメリカの伝統的な料理を食べたり、人によってはブラックフライデーに買い物したりと、このホームステイはアメリカの文化を肌で感じることの出来る、貴重な機会だと思いました。

この留学を通して私は大きく成長できたと思います。アメリカではアメリカの文化、歴史など沢山アメリカのことをまなびました。同時に自分の母国である日本のことをよく知らずにいたのだということに気づかされました。そして、毎日授業を受け、また多くの外国人と話して、私は自分の意見を持つことが中々できないことを反省しました。それまではそれをあまり気にしてはいなかったのですが、そのままにしてはいけないと気付き、話し合いではあまり意見を言わない私でしたが、少しずつ言えるように努力するようになりました。このように、今回の留学はアメリカをみて、違う文化、違う国の人たちをみて、日本や自分自身を見つめ直す機会でもあったと思います。アメリカで学んだことを無駄にせず、これからの人生に役立てる努力を怠らない様にしたいです。